

# 府・市・法人3者による 新大学基本構想(案)の概要

令和2年1月  
府民文化部

# 新大学がめざすもの

## 1. 大学統合の必要性

国内では急速に少子高齢化が進行する中、国立大学における法人統合の検討や私立大学間の学部移譲など、大学再編、統合を後押しする動きが進む一方、アジアの主たる大学では、数万人の学生を有し、積極的な英語授業や留学生の受入れなどにより、世界的なプレゼンスを高めている。

このような状況のもと、大阪府立大学と大阪市立大学を統合することにより一定規模の大学となり、国内のみならず海外に対しても大学の価値を一層高めることが求められている。

さらに、科学の進歩・社会の変化とともに、1つの分野の知識だけでは解決できない課題に対し、統合により、両大学の強みを活かして、非常に高度な融合研究を展開し、課題解決に寄与することをめざすものである。

## 2. 大阪の発展を牽引する「知の拠点」をめざして

### (1) 2つの新機能と4つの戦略領域

- ・ 新大学では、新たに「都市シンクタンク」機能及び「技術インキュベーション」機能の2つを備えることで、大阪の都市課題の解決や産業力強化など、大阪の発展に貢献することをめざす。
  - ◆都市シンクタンク機能・・・高度化・複雑化する様々な都市課題に対し、これまでの研究で培われた高度な知見を生かしつつ、パブリックデータの分析や産官学のネットワークなどを活用し、府市等と密接に連携しながら大阪の都市課題解決に貢献する。
  - ◆技術インキュベーション機能・・・様々な分野の強みを持ち寄り、企業連携を進め、新たな研究に取り組むことにより、大阪産業の競争力強化に貢献する。
- ・ 特に、「スマートシティ」「パブリックヘルス／スマートエイジング」「バイオエンジニアリング」「データマネジメント」といった、両大学の強みである4つの戦略領域について、重点的に取り組んでいく。

### (2) 3つの基本機能のさらなる強化

- ・ これまで培ってきた両大学の歴史と伝統を活かし、理系・文系・医療系の幅広い学問体系を擁する総合大学として、国際化やダイバーシティにも積極的に取り組み、本来の使命である「教育」「研究」「社会貢献」をさらに充実させる。

### (3) 国際力の強化

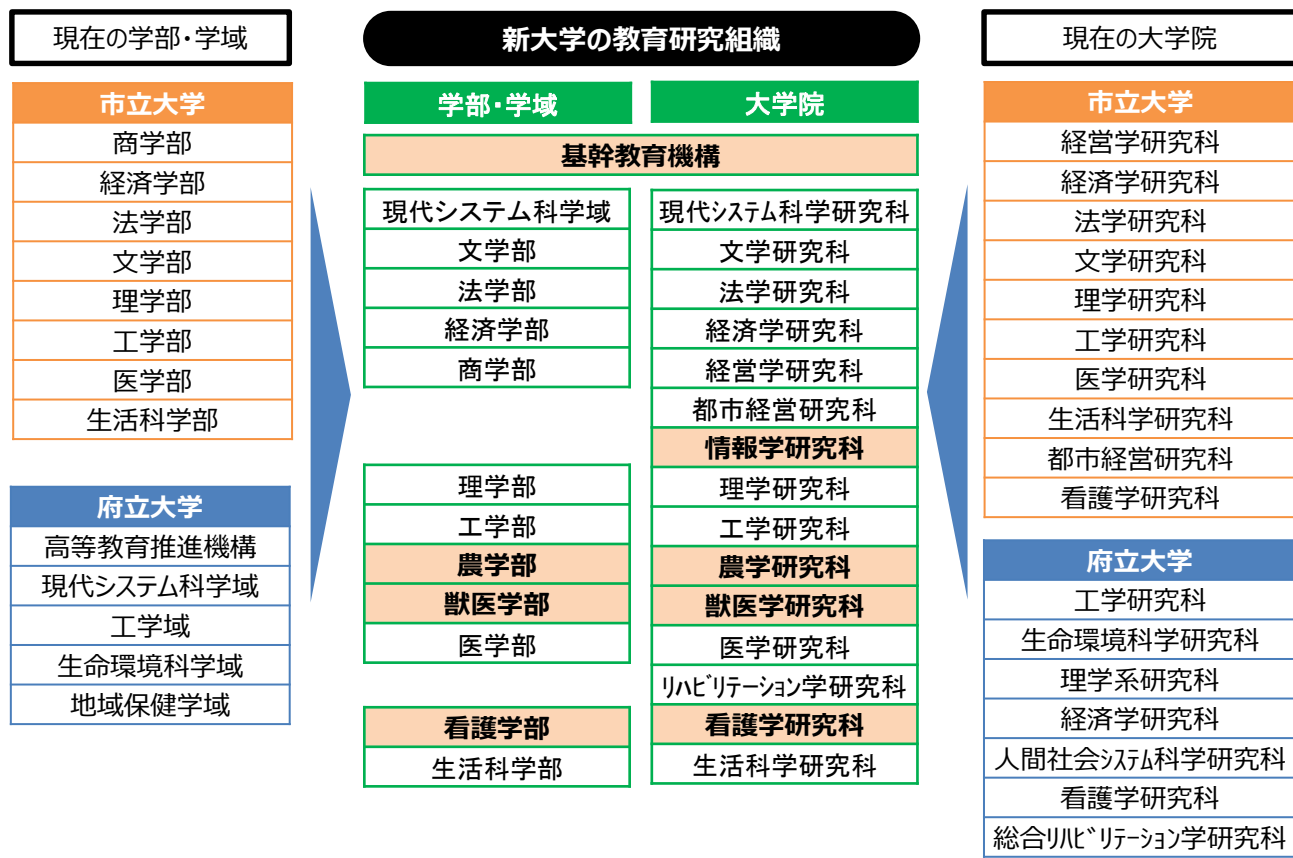
- ・ 新大学では高度な研究力を基盤とした国際競争力の強化を目指す取組を展開する。
- ・ 新大学では、教育研究の質の向上や、国際力強化の取組み等を行うことにより、世界大学ランキング200位をめざす。

## 3. 選択と集中

両大学の統合にあたっては、ガバナンスを強化して取り組む。なお、教育研究体制については、両大学の同種分野の融合を進めるとともに、新大学の特徴をより明確に打ち出すため、選択と集中により、時代の要請に応じた学部等の設置を検討する。

# 新大学の教育（教育研究組織）

新大学では、両大学の同種の分野を集約することを基本とした上で、農学部・研究科、獣医学部・研究科、看護学部・研究科を独立、新たに情報学研究科を設置  
(1学域 11学部 15研究科)



## <主な特徴>

### ◆基幹教育機構

- 英語教育の強化(卒業までにCEFR B1以上をめざす)

### ◆情報学研究科(※新設)

- 全学の情報系を大学院において集約、学際的・分野横断的な教育研究を推進。
- 情報に関する卓越した知のプロフェッショナル及び教育者を養成。

### ◆農学部(※学部として独立)

- 「生命環境科学域」から「農学部」として独立。

### ◆獣医学部(※学部として独立)

- 公立大学かつ関西圏唯一の獣医師養成課程を設置。医学・獣医学の連携による感染症対策などに貢献。

### ◆看護学部(※学部として独立)

- 大阪の健康長寿社会を支えるヘルスケア人材を養成。

# 新大学のキャンパス

## <キャンパス整備の方針>

- 新大学では、2025年度を目途に都心メインキャンパスを森之宮に整備するとともに、同種分野で集約化を行う学部(工学部、理学部、看護学部)については、同一キャンパスで教育を行う必要があることから、キャンパスの集約化を優先的に進める。

工学部 ⇒ 中百舌鳥キャンパスに集約

理学部 ⇒ 杉本キャンパスに集約

看護学部 ⇒ 阿倍野キャンパスに集約

- 森之宮キャンパスには、全学の学生が一堂に集う基幹教育とともに、大阪の都市課題の解決や成長に貢献していくために必要な機能(都市シンクタンク機能や技術インキュベーション機能の拠点)のほか、森之宮キャンパスに必要なものについて配置する。
- 森之宮キャンパスの整備にあたっては、費用負担軽減に向けて民間活用の検討を行う。検討の結果、適用可能なものについては、民間活用を行う。
- 候補用地の環境整備や新学舎の建設、既存学舎からの移転等、新キャンパス整備に伴う相当額の投資については、合理的な範囲で可能な限り圧縮する努力をする。(※整備対象や建設工法、事業費、財源等については引き続き検討)

現 状		開学 (2022年度)		分野集約 (2024年度)		新キャンパス一部整備(2025年度～)	
府立大学	【中百舌鳥キャンパス】 工学 現代システム 生命環境 (獣医除く) 地域保健 (教育福祉)	【杉本】 基幹教育	【中百舌鳥】 基幹教育	【杉本】 基幹教育	【中百舌鳥】 基幹教育	【森之宮】(都心メインキャンパス) 基幹教育 文学 リハビリ学 生活科学	
	【りんくうキャンパス】 生命環境 (獣医)	【阿倍野】 医学 看護学	【羽曳野】 リハビリ学 看護学	【阿倍野】 医学 看護学	【羽曳野】 リハビリ学 看護学	【阿倍野】 医学 看護学	
	【羽曳野キャンパス】 地域保健 (看護・総リハ)	【杉本】 文学 社会科学 情報学 理学 工学 生活科学		【杉本】 文学 社会科学 理学 生活科学		【杉本】 社会科学 理学	
市立大学	【杉本キャンパス】 文学 社会科学 工学 理学 生活科学	【中百舌鳥】 現代システム 情報学 理学 工学 農学		【中百舌鳥】 現代システム 情報学 理学 工学 農学		【中百舌鳥】 現代システム 情報学 工学 農学	
	【阿倍野キャンパス】 医学 (医学・看護)	【りんくう】 獣医学		【りんくう】 獣医学		【りんくう】 獣医学	
	【梅田サテライト】 都市経営	【梅田サテライト】 都市経営		【梅田サテライト】 都市経営		【梅田サテライト】 都市経営	

# キャンパス整備にあたっての確認事項

## キャンパス整備にあたっての考え方

- 大学法人の示した新大学基本構想では事業費推計1,000億円(森之宮、阿倍野、杉本、中百舌鳥)となっているが、来年度、基本設計を行う中で整備内容や事業費の精査を行い、事業費が増大した場合には、実施スキーム等について再検討を行う。
- また、民間活力の導入の他、キャンパスの一部売却などにより、さらなる公費負担の縮減に向けた取り組みを進めるとともに、法人にも、一定の自助努力を求める。

## キャンパス整備に係る府市負担

- 設立団体として、新大学の運営を対等の立場で支援するという方針のもと、新大学に係る経費は府市折半を基本とする。
- これを踏まえ、新大学のキャンパス整備に係る経費については、以下の考え方を基本とする。
  - 新大学の施設の建設費・・・府市折半(キャンパス整備として行う施設改修も含む)
  - キャンパス整備のための用地費・・・府市折半(ただし、森之宮キャンパスの整備用地は市有地であるため、土壤汚染対策等については、市において負担)